

ナースインホーム ひまわり

症例概要 利用者氏名：O・T様（80代 男性 要介護 5）

利用期間：平成30年2月～平成30年7月

経過：平成29年7月に脳血管障害にて寝たきりになり、誤嚥性肺炎で入退院を繰り返すうちに廃用症候群の進行で経口摂取困難となる。

家で看取りたいと家族の強い希望で以前利用されていた小規模多機能からナースインホームひまわりへ紹介があった事例。

既往歴：脳出血後遺症、失語症、慢性閉塞性肺疾患、狭心症、誤嚥性肺炎、てんかん疑い、左ヒラメ静脈血栓症

内 容

平成30年2月よりナースインホームひまわり利用。週1回の「訪問看護」週2回の「訪問リハビリ」週3回の「通い」週2回の「訪問介護」週1回の「泊り」と本人・家族の意向に沿ったケア支援を開始しました。

訪問当初は声掛けに対しても無表情で発語もなく全身の拘縮が強く全介助を要する状態で声掛けに対しても本人はまったく無表情でした。無表情でも"尊厳ある生活"をと毎日スタッフが笑顔で話しかけていくうちに2か月後、無表情だった顔から少しずつ笑顔が見られるようになり、首を動かし周囲に興味を示すようになりました。

リハビリを行う際には必ず本人に体調を確認し、今日はどこまでやりましょう、といった目標を設定し、モチベーションを高める工夫をしたり、昔の写真を用いて、若いときにどんなことに興味があつて、どんな趣味を持っていたのか、など様々な情報を聞いたうえで、本人がやりたいと思うリハビリのメニューを設定していきました。

その結果、徐々にではありましたが、「ハイ」「ひまわりに行く」等と短い言葉も話すようになり、少食だった食事面も介助ですが咽る事なく完食するようになったのです。驚いた家族からは「ご飯こんなに食べて大丈夫でしょうか？」と相談されるまでになりました。

現在ではナースインに来ると、職員を呼び、昔趣味でやっていたハーモニカを吹くまでに回復し、これからは介助無しでハーモニカで1曲弾くのが夢だから、皆で手伝ってほしいという本人からのお話もありました。

"在宅で看取る覚悟"でナースインホームひまわりを利用し介護を行ってきた妻と家族にとって、夫・父親の存在の復活は日々の介護にやりがいを持たせ、人間の持つ生命力の偉大性に感動をいただいた様です。今後は自宅の広い庭と一緒に散歩できるようになりたいと夢と希望を持ち続ける本人・家族と共に、私たちスタッフも無限大の能力を信じ発揮できるケアの提供を日々目指し、ささいな喜びも本人・家族と分かち合える"心をつなぐ"したケアに当たっていきたいと思います。